

2023.4.17 第1回霊的講話 「霊的講話について」

生徒の皆さん、お早うございます。

新学期が始まって10日ほど経ちましたが、生徒の皆さんは元気で新学期を過ごしていることと思います。特に、中学校1年や高校1年の皆さんは、新しい学校、新しいクラスや友達に慣れてきたでしょうか？ 今週は新入生オリエンテーションが始まります。クラスの仲間や先生方と、お互いの理解がさらに深まればよいですね。

さて、今日から「霊的講話」を開始します。新入生の皆さんには、この「霊的講話」が初めての人もいますので、少し説明をします。説明は、1 霊的講話とは何か、2 霊的講話ノートの使い方、3 聖書とはどのような書物か に分けてお話をします。

まず1「霊的講話とは何か」についてです。

この霊的講話とは、聖書の言葉を読み、神様について、私たち人間について、そして神様が与えてくださる救いについて、共に考える時間です。

聖書（英語ではバイブルと言いますね）はとても有名な書物で、世界の歴史や社会、あるいは思想や哲学などにも大きな影響を与えるとともに、多くの人々に感銘を与え、その人生を変えてきた書物です。そして、聖書はとても不思議な書物です。私は十代後半の頃から、繰り返し繰り返し聖書、旧約聖書と新約聖書とを読んできましたが、読むたびに、必ず新しく教えられること、新しく発見することがあります。また、自分の人生という大きな括りだけではなく、日々の生活や仕事で出会う様々な問題についても、聖書の言葉から慰めや励まし、そして時に叱責（お叱りの言葉）を受けています。私にとっては、聖書の言葉は、いつも生き生きとした神様の言葉だと思っています。生徒の皆さんも、この聖書が伝えるメッセージに、共に耳を傾け、共に考えることができればと思います。

なお、中学校一年の皆さんには、まだ聖書が手元に届いていませんから、今日の箇所を印刷したプリントを配布しますので、今日はそれを使ってください。

次に、2番目として「霊的講話ノート」の使い方をお話しします。まず、水色のノート「霊的講話ノート」の最初のページを開いてください。一番上側に、今日の年月日を書く欄があります。今日は2024年4月17日水曜日ですね。

次に、聖書の箇所を記入する欄があります。ここには、その日の「霊的講話」で皆さんと一緒に読んだ聖書の箇所を記入します。今日一緒に読む箇所については、後でお話します。

その下に、MEMOと書いてある空白がありますが、ここは皆さんが放送を聞きながらメモをとるためのスペースです。さらにその下側の横罫線の書いてある部分には、この話を聞いた後で、今日の霊的講話で皆さんが学んだことや考えたこと、感じたことを自由に書いてください。その欄の、せめて8割以上は書いてくれると嬉しいですね。

では、3番目として、聖書とはどのような書物かについて、とても簡単にお話しします。先ほど少しお話したように、聖書は旧約聖書と新約聖書に分かれています。この、旧約聖書、新約聖書の「約」は「約束」、「契約」という意味です。

「旧約聖書」とは、神様と人間との古い約束・契約が書かれた書物という意味です。この旧約聖書はイエス・キリストが誕生される遙か以前に書かれた書物で、イスラエルという民族の歴史をとおして、神様が人々に何を語られ、何を約束されたかが記されています。

「新約聖書」とは神様と人間との新しい約束・契約が書かれた書物という意味です。この新約聖書はイエス・キリストが誕生された後に書かれたもので、イエス・キリストの生涯を伝える四つの「福音書」という書物と、このイエス様の弟子達の活動の記録や弟子達の手紙が集められています。なお、今年の高校生そして中学校3年の皆さんの手元にあるのは、この新約聖書だけで、旧約聖書は含まれていません。

では、今日の聖書の箇所ですが、今日は、新約聖書の394ページ、「テモテへの手紙二」の3章15節から16節をお読みします。この394ページの上の段落に、右側に小さい字で15と書いてある文がありますね。これが節、15節です。霊的講話ノートにも、「テモテへの手紙 二」の3章15節、16節と書いてくださいね。

この「テモテへの手紙」を書いたのはパウロという人で、イエス様の教えと救いを地中海沿岸の国々に広く伝えた人です。このパウロが自分の弟子であるテモテに書き送ったのが、この「テモテへの手紙」です。お読みします。

「また、自分（テモテのことです）が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物（聖書のことです）は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下（もと）に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。」

ここで、パウロはどんなことを言っているのでしょうか。次の三点にまとめられます。

一つ目は、聖書の目的についてです。ある人は歴史を研究するために聖書を読み、ある人は道徳的な教えを学ぶために聖書を読みます。しかし、聖書の本当の目的は、私たちを、主イエス・キリストによる救いに導くことにある、ということです。

二つ目は、聖書は、神様がご自分の霊によって、ある特定の人々を導きながら書かせたものである、ということです。ですから、聖書は「神の言葉」と表現されることもあります。聖書は、人間が勝手に考えたり想像したりして書いたものではないのですね。

そして、三つ目は、聖書の言葉は、私たちの人生のいろいろな時に、私たちを教え、導き、訓練することができる、ということです。

これからの「霊的講話」では、この聖書のいろいろな言葉や物語を読みながら、一緒に考えてみたいと思います。

それでは、今日の霊的講話はこれで終わります。この後の時間を使って、横罫線を書いてある部分に、今日の霊的講話で学んだことや考えたこと、感じたことを書いてください。

では、もう一つの冊子、「賛歌」という冊子の8ページを開いてください。そこに、「主の祈り」という、主イエス様が教えてくださった祈りがあります。私たちの学校では、皆で一緒に唱えることの多い祈りで、皆さんの教室の前黒板の上にも掲げられていますね。この「主の祈り」を一緒に祈って、今日の霊的講話を終わりたいと思います。

【主の祈り】

では、皆さん、今日も元気で頑張ってください。